

り組む。特徴としては、「魚のまち長崎」をPRする旅行商品の開発や特産品等の開発を行う雇用創出実践メニューがあり、本メニューを活用することにより、水産業を初めとする第一次産業の生産を拡大し、第二次産業で付加価値を高め、第三次産業で観光産業の売上拡大につなげ、雇用機会の創造と拡大を図る。協議会で行う事業と1市2町が行う産業振興の施策とを効果的に連携させながら、雇用の創出に努めていきたい。

世界新三大夜景

問 「世界新三大夜景」認定後、初めてのゴールデンウィークを迎えたが、期間中、夜景の代表的な視点場である稲佐山山頂展望台の状況及び市としてどのような対策をとられたのか、また、今後の対策について伺いたい。

答 同展望台を訪れた平成24年度の来場者数は、過去10年で最多の約48万2,000人を記録した。今年のゴールデンウィーク期間中、18時30分から22時30分までの間、山頂駐車場をタクシー専用とし、一般車両は中腹駐車場に誘導して、観光客を4台の無料シャトルバスで



▲稲佐山山頂駐車場入り口

山頂展望台に送迎する方法を試験的に実施した。その結果、山頂駐車場入り口ゲート付近の駐車待ちの渋滞は発生せず、大きな混乱もなく、無事終了した。この結果を受け、今後も連休等の繁忙期は、今回と同様の対策を検討するとともに、観光客の皆さんが、より快適に夜景観賞ができるよう、ハード・ソフト面を含め総合的な環境づくりに努めていきたい。

クルーズ客船の母港化

問 長崎港をクルーズ客船の寄港地とするだけでなくクルーズ客船の発着点とすることで大きな経済効果が考えられる。市として母港化に向けた企業誘致の視点から、クルーズ客船を運営する会社等への働きかけをする必要があると思うが見解を伺いたい。

答 母港化へ向けた取り組みについては、クルーズの発着前後に伴う宿泊客の増加だけでなく、雇用創出など企業誘致の視点から多大な経済波及効果が期待される。船会社・旅行社に対し、九州運輸局や県などの関係者と連携したPRやセールスを行うとともに旅行社等のキーパーソンを招請し、寄港時間の延長に向けて積極的に働きかけた。また、アジア・国際観光戦略の中

で、おもてなしや受け入れ体制の充実を推進していきたい。

明政・自由クラブ

大村湾横断浮橋架橋の構想

問 大村湾横断浮橋架橋の構想について、周辺自治体を交えた協議会の設立に向けて、これまでも積極的に参画していくべきであると主張してきたが、その後の状況等について伺いたい。



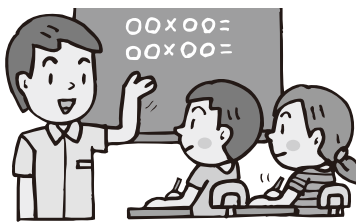
▲アメリカ・ワシントン州にある浮橋

答 平成21年に大村市長の呼びかけにより「大村湾フロートインングブリッジ勉強会」が発足したが、具体的な研究の進展はない状況である。また、今年2月の県議会において、大村湾横断道路の整備に関する質問があったが、「多額の費用が必要であることから、費用対効果の観点を含めて検討する必要がある」との見解が示されている。本市としては、実現に向けてはさまざまな課題があるものと考えているが、非常に夢がある魅力的な事

業でもあり、県や大村市などの関係自治体と意見交換を行っていきたい。

生活保護受給世帯への学習支援

問 生活保護を受けて育った子どもが大人になって再び保護を受ける「貧困の連鎖」をどのように認識しているか。また、「貧困の連鎖」を断ち切るための対策として、生活保護受給者の子どもが無料で学習支援を受けられる体制の実現について見解を伺いたい。



答 「貧困の連鎖」は全国的な問題で、家庭での親の養育能力や不規則な生活習慣の問題、また、学習環境や進学などの将来の自立意識の問題などが要因として考えられ、これらを改善していく必要があると認識している。生活保護受給世帯の子どもに対する学習支援は、その後の就労及び自立のためにも極めて重要であり、ひいては「貧困の連鎖」を防ぐ大きな手段の一つであると考えられるため、国の動向、他都市の状況等も参考にしながら、来年度の実施に向けて最大限の努力をしたい。